授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅲ　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	冨樫　大	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	W4-1007c				

【授業の主題】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する。生活支援技術論で学習した人体の構造と機能の知識を基盤とし、日常生活の根幹である「移動・移乗」についての知識と技術を深める。

【到達目標】

1．移動の意義、目的、実践の根拠（エビデンス）について説明できる。
2．対象者の残存能力を活用し、自立に向けた「持てる力」を引き出す知識・技術を習得する。
3．移動に関する福祉用具（車いす、杖、歩行器等）の特性を理解し、適切に活用できる。
4．現場での移動介助の経験が、環境整備や多職種連携においてどう活きるかを理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回：移動・移乗の意義と目的、安全・安楽の基本概念
第 2 回：移動・移乗における ICF の視点とアセスメント
第 3 回：ボディメカニクスの原理と人間工学の実践
第 4 回：関節可動域の理解と良肢位の保持
第 5 回：移動・移乗の技術①：基本的動作の理解
第 6 回：移動・移乗の技術②：自立度が高い場合の部分的援助
第 7 回：移動・移乗の技術③：全面的援助を要する場合の介助
第 8 回：移動・移乗の技術④：ベッド・車いす間の移乗動作
第 9 回：移動・移乗の技術⑤：杖・歩行器・車いすの操作と環境整備
第 10 回：技術チェック「車いす移動と移乗の基礎」
第 11 回：疾患・障害特性に応じた移動支援（片麻痺等）①
第 12 回：疾患・障害特性に応じた移動支援（拘縮等）②
第 13 回：疾患・障害特性に応じた移動支援（認知症等）③
第 14 回：褥瘡の原因と予防：移動・移乗との関連性
第 15 回：関連職種（PT/OT 等）との連携と、最新福祉機器の活用

【授業実施方法】

グループワークおよび演習形式で行う。介助者役・利用者役を交互に体験し、身体的・心理的な気づきを共有する。個別性に合わせた介助方法をディスカッションする。

【事前・事後学習】

事前学習：前回の演習で学んだ手技のポイントを復習し、関連するテキストの該当箇所を確認しておく（30 分）。
事後学習：今回の演習で実施した手技とボディメカニクスの活用状況を自己評価し、課題を整理する。また、学んだ技術が利用者の外出や社会参加にどう繋がるかを考察する（30 分）。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ　中央法規出版

【参考文献】

適宜紹介する

【成績評価方法】

筆記試験（知識の習得）60%、実技チェック（技術の習得）30%、演習への取り組み 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

施設・居宅の両現場における実務経験に基づき、自立支援や尊厳保持を「科学的・客観的」に捉え直す視点を提示する。根拠（エビデンス）に基づいたケアの実践を軸に、人間工学的な知見を活用した身体介助技術や、多職種連携における情報共有のあり方を修得。演習を通じて、利用者の「持てる力」を最大限に引き出し、利用者本位の生活を継続させるための高度な実践力を養う。

【学生へのメッセージ】

安全・安楽な介助には、根拠（エビデンス）に基づいた技術が不可欠です。 単なる作業の習得ではなく、「なぜその介助が必要か」を身体メカニズムから理解しましょう。現場で利用者の身体を支え、その反応を直接知る経験は、将来皆さんが多職種と連携する際の揺るぎない土台となります。